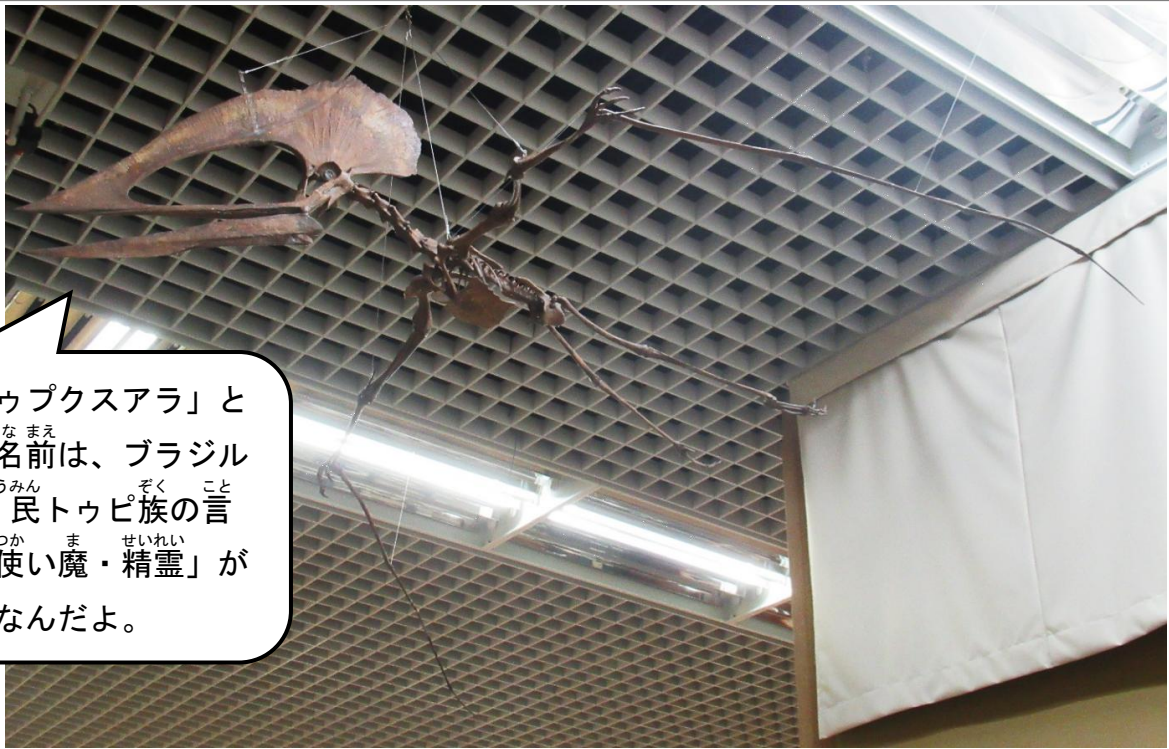
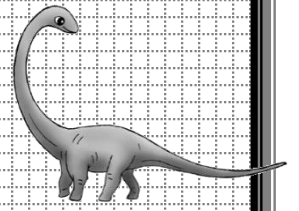


2026年1月

地質 — No. 3 2

けんぱくものしりシート

トウプクスアラ



「トウプクスアラ」という名前は、ブラジル先住民トウピ族の言葉「使い魔・精霊」が由来なんだよ。

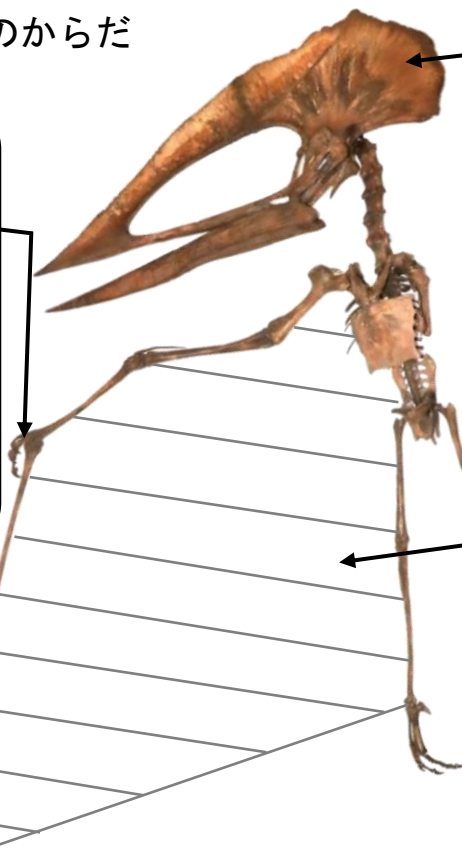
トウプクスアラは、南米で発見された初めての歯がない翼竜です。翼竜は、せきつい動物の中で最初に空を飛ぶことができた

- ・名前：トウプクスアラ
- ・分類：は虫綱翼竜目タラッソドロメウス科
- ・時代：中生代白亜紀前期(約1億1,200万年前)
- ・発見地：ブラジル
- ・翼開長：約4 m

は虫類と考えられています。トウプクスアラなどの翼竜は、頭部が大きくて体の部分の骨が細いのですが、骨の内側が空どうになっていることで体重は軽くなり空を飛びやすい体つきになっています。また、空どうの中に「気のう」と呼ばれる器官があります。「気のう」は、空気をたくわえて体をうきやすくさせたり呼吸を助ける役割をします。そのため、酸素を多く取りこむことができたので、トウプクスアラたちは空を飛び続けることができました。

■トウブクスアラのからだ

よくりゅう ゆび ほん
翼竜の指は4本
 まえあし おやゆび なかゆび
 ・前足の親指～中指
 には、するどいかぎ
 つめ
 爪があり、手のよう
 うご
 な動きをする。
 まえあし ぐすりゆび
 ・前足の薬指は、
 なが
 長くのびている。



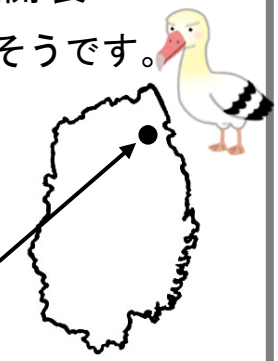
おお やくわり
大きなトサカの役割
 と あいだ なが おお
 ・飛んでいる間、長くて大きな
 あたま あんてい
頭を安定させる
 なか ま
 ・仲間へのアピール
 ひょうめん けっかん
 ・表面に血管のみぞのようなもの
 があるので、体温調整または
 えいよう はこ けっかん
 栄養を運ぶための血管 など
 いろいろな説がある。
 ひまぐ
 ひ きんにく
 ・皮ふや筋肉でできた、うすくて
 じょうぶなまくを広げて、グライダー
 のように空気をつかんで空を
 と かんが
 飛んでいたと考えられている。



にほん よくりゅう しょうわ ねん にほん はじ よくりゅう かせき ほっかいどう み
■日本の翼竜：1972（昭和47）年に日本で初めて翼竜の化石が北海道三
 かさし はっけん ねんご へいせい ねん いわてけんくじし はつ
笠市で発見されて、その38年後の2010（平成22）年には岩手県久慈市でも発
 けん
見されました。これは日本で6例目の発見で、骨の大きさから翼開長3mく
 よくりゅう かんが げんざい よくかいちょう
らいの翼竜だと考えられています。現在のアホウドリ（翼開長1.9～2.2
 おな おお よくりゅう なか こがた
m）と同じくらい大きさであり、翼竜の中では小型だったそうです。



- ・名前：翼竜のし骨（左の薬指の付け根部分）
- ・時代：中生代白亜紀後期（約8,500万年前）
- ・発見地：岩手県久慈市 久慈琥珀博物館敷地内
- ・大きさ：縦17 cm、横2 cm、厚さ2 cm



引用・参考 南部靖幸（熊本博物館）（2022）『「世界の翼竜展」展示ガイドブック』世界の翼竜展実行委員会 / 岩手県立博物館（2004）『これなあに？地質No.50 トウブクスアラ』岩手県立博物館 他

- 「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。
- 「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



モッチャン

岩手県立博物館
 〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷 34
 Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214

岩手県立博物館 検索
 HPIにてバックナンバー公開中！

トゥプクスアラ

2026年1月発行

■ 参考文献

- ・ 岩手県立博物館（2004）『これなあに？地質No.50 トゥプクスアラ』岩手県立博物館
- ・ 土屋健（2015）『生物ミステリーPRO 白亜紀の生物 下巻』株式会社技術評論社
- ・ 南部靖幸（熊本博物館）（2022）『「世界の大翼竜展」展示ガイドブック』世界の大翼竜展実行委員会
- ・ 安井謙介（2015）『第30回特別企画展 展示解説書 天空を制した巨大翼竜と鳥たち』豊橋市自然史博物館